

東京民医連☆薬害根絶の会 news ☆

2018年1月発行 No.75

千ヨット遅く
なりましたが

明けましておめでとうございます。

今年もよろしくお祈りします。



★第26回 国民の医薬シンポジウム レポート★

12月17日、平和と労働センター・全労連会館（湯島）で開催されました。

エイズ治療薬をめぐる大企業の特許権との攻防を綴ったドキュメンタリー映画「Fire in the blood/薬は誰のものか」が上映されました。

1990年代後半のアフリカ諸国、インドなど途上国における何千万ものエイズ感染患者が高額故に薬をのめないまま死に至る苦しみ描かれ、当該諸国、アメリカの患者団体や活動家、ジェネリック医薬品企業が人々に医薬品を届けるための努力とそれに立ちはだかる製薬大企業との闘いが綴られています。知的財産権、特許権、製薬企業に有利な貿易上の様々な条約などをかざして医薬品の高額化を相当と主張する大企業に対し、命か利潤かを命題に、高額化の壁を切り崩していきます。

実際にどれだけの原料費で製造費なのか、なぜそのような高額な値段がつけられたのかを問われた時、原料費、製造費など企業の証人は誰ひとり答えられませんでした。そして、元企業の役員は「原料や製造費、研究開発に費やした分は利益のほんのわずかで取り返せる。ほとんどは広告宣伝費、幹部の給料、医師の娯楽費に使われている」とインタビューに答えています。

このことは薬をとりまく社会情勢において、今も注目しなければならないことだと考えます。後半の講演「高薬価問題を考える」において、講師の醍醐先生の発言の中で「薬の原価、製造費、研究費など実際どれだけかかっているのか明白にさせて薬価をどうするか考えてみたらどうなのか！」と話されていました。高薬価の現状を、難解過ぎて仕方ないことかな、と思っていた自分を省みました。

高薬価問題、薬の必要性、薬と経済および世界情勢をこの映画をきっかけに考えていくことができると思いました。



☆HPV ワクチン東京訴訟支援ネットワークより

★2月14日 東京訴訟第5回期日@東京地裁 103号法廷@15:00～

♡当日はバレンタインデーなので、チラシにチョコを添えて配ります。

@有楽町駅イトシア前@12:30～

◇14時位から裁判所正門前で集会をして、傍聴の抽選となります。傍聴出来なかった方には裁判中に法廷外企画があります@裁判所近くの全日通霞が関ビル8階

♣17時から法廷外企画と同じ会場で報告集会を始めます。

♪♪是非みなさん傍聴にいらしてください♪♪

★2月16日（金）学習会「ミニゼミ in 東京/HPV ワクチン薬害被害を学ぶ」

♡IKE・RizとI 産業振興プラザ-旧豊島勲館 @14:00～16:30



薬いろいろ..インチュニブ[®]-グアンファシン/アドレナリン α 2a 作動/AD/HD 治療薬

*リタリン、コンサータと同じ中枢神経刺激作用を持つ、小児のAD/HDの治療薬です。

類薬と違って「成長遅延がない」と、説明会などでは推して、添付文書では、類薬には重要な基本的注意の「成長遅延」の記載が、インチュニブにはありませんでした。

*でも、ホントにそうなの？と、審査報告書と成長遅延の文献(TIP2011,Vol26.No10)をチェックして、一応メーカーさんに質問をしてみました。

*結果をまとめると..ベースラインで未使用者と6-9割減ではあるが有意差無しの範囲内であり、症例も少ない(成長期では実薬投与30名程)ことから、重要な注意事項への記載は免れただけという感じです。類薬の成長遅延の文献では、投与中の身長は認められるも、服薬終了して成人した最終的な身長に差はなかったというものでした。

*体重増加が注意されているので成長遅延は少ないかもしれませんが、「押し」を鵜のみにには出来そうにないですね。(簡易な調査なので、これも鵜のみににはされませんように)